

ミヤマヒラタハムシ

ハンノキ属やカバノキ属の葉を食べる小形のイモムシ（幼虫）または甲虫（成虫）。幼虫は6月に出現，黒い。体長最大10mm前後。体は後方に向かい徐々に細くなる。尾端は吸盤状。イボ状の脚（腹脚）はない。成虫は緑～青色に輝く扁平な甲虫。体長7mm前後。春～秋までみられる。幼虫，成虫ともに葉に穴を開けるように食べる。

北海道では正式な記録はないが，ケヤマハンノキで多発することがある。本州ではダケカンバ林で多発記録がある。



1. 幼虫，体長10mm。1991/6/10.

佐呂間町，ケヤマハンノキ。



2. 成虫，体長6.5mm。1の集団を飼育。

【学名】 *Gastrolina peltoidea*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ハムシ科（Chrysomelidae）

【分布】 北海道，本州，四国；シベリア東部，中国北部。

【特徴】

幼虫はハンノキハムシの幼虫に似る。出現時期が1ヶ月近く早い。また，体形や葉の食べ方が異なる。

【生態】

宿主：ハンノキ属（ケヤマハンノキ），カバノキ属（ダケカンバ）。

年1回発生。成虫越冬。成虫は芽吹きの際に越冬からさめ，食害しながら産卵する。幼虫は6月に出現。集団性，葉に穴を開けて食べる。葉上で蛹になる。7～8月に蛹から成虫が羽化し，初秋まで食害を続ける。その後，樹幹の祖皮下や落葉中で越冬に入る。

【文献】

1956. 中根猛彦監修。原色日本昆虫図鑑甲虫編，増補改訂版：1-274，pls 1-68。保育社，大阪。（分類，形態，生態）

1963. 中根猛彦ほか. 原色日本昆虫大図鑑Ⅱ (甲虫篇) : 1-18, 1-443, pls 1-192. 北隆館, 東京. (分類, 形態, 生態)
1994. 木元新作, 滝沢春雄. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539p. 東海大学出版会, 東京. (分類, 形態, 生態)
1994. 奥田素男. ミヤマヒラタハムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 360-361. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ミヤマヒラタハムシ hamusi/miyamahi/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992/3/4-2001/3/11.

1yochu.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～2」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991.